

## 詩篇46-50篇 「都におられるキリスト」

### 1A 揺るがない都 46

1B 水の立ち騒ぎ 1-7

2B 戦いをやめさせる方 8-11

### 2A 国々の喜び叫ぶ王 47

1B 選ばれた嗣業の地 1-4

2B 即位される主 5-10

### 3A 大王の都 48

1B おじ惑う王たち 1-8

2B 宮にある神の恵み 9-14

### 4A 死ぬ時に持って行けない富 49

1B すべての国々への知恵 1-4

2B 栄華に留まらない人 5-13

3B 陰府から買い戻される魂 14-20

### 5A 審判者なる神 50

1B 感謝のいけにえ 1-15

1C ご自分の民の選り分け 1-6

2C 助けられる主 7-15

2B 主の戒めを憎む者 16-23

## 本文

詩篇 46 篇を開いてください。46 篇から 50 篇までを読んでいます。私たちはこれから、「神の都」についての詩篇を読んでいます。神の都に、キリストが王として座しておられる姿です。ですから、キリストの再臨、そしてエルサレムにおける即位、そしてその統治の麗しさについて見ていきます。これはまさに、私たちが礼拝を捧げるにふさわしい歌です。私たちが歌う賛美に、数多く、この方が王であるから賛美し、礼拝しているものがあります。

歴史的背景は、ヒゼキヤが王の時、アッシリヤ軍に取り囲まれて、一夜にして十八万五千人を主の使いが打ち滅ぼしたことがあります。イザヤ書 37 章 36 節を読みます。「主の使いが出て行って、アッシリヤの陣営で、十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな、死体となっていた。」そして、歴代誌第二 32 章には、この出来事のゆえに国々がヒゼキヤに主への贈り物を持ってきたとあります。「こうして、主は、アッシリヤの王セナケリブの手、および、すべての者の手から、ヒゼキヤとエルサレムの住民とを救い、四方から彼らを守り導かれた。多くの人々が主への贈り物を携え、ユダの王ヒゼキヤに贈るえりすぐりの品々を持って、エルサレムに来るようになり、この時以来、彼はすべての国々から尊敬の目で見られるようになった。(22-

23 節)「アッシリヤ帝国軍を主が打ち殺したことによって、この小さなエルサレムという都に、王なる神がおられるのだということが、周囲の国々が悟り、それで贈り物を持ってきたということです。

### 1A 揺るがない都 46

#### 1B 水の立ち騒ぎ 1-7

46 指揮者のために。コラの子たちによる。アラモテに合わせて。歌 46:1 神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。46:2 それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。46:3 たとい、その水が立ち騒ぎ、あわだっても、その水かさが増して山々が揺れ動いても。セラ 46:4 川がある。その流れは、いと高き方の聖なる住まい、神の都を喜ばせる。46:5 神はそのまなかにおまし、その都はゆるがない。神は夜明け前にこれを助けられる。46:6 国々は立ち騒ぎ、諸方の王国は揺らいだ。神が御声を発せられると、地は溶けた。46:7 万軍の主はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらのとりでである。セラ

私たちは午前礼拝にて、46 篇を学んだのでぜひ説教を聞いてない方は後で聞いてください。ここでは自然現象として、どんなに天地が揺るごうとも神の都は一向に揺るぎないという意味と、そしてアッシリヤ軍が襲ってくる様を洪水として、エルサレムに流れている小さな地下水道、ギホンの泉からシロアムの池に流れている川を比較して、二重になっています。

まず、自然現象から考えましょう。これだけの大きな天変地異が起ころうとも、それでも神の都はびくともしません。私たちの信仰は、このような全く揺るがない都に拠っているのだということを知る必要があります。「1ヨハネ 2:15-17 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。」この世界は、そこにある欲と共に滅びます。しかし、神の御心を行っている者は、そうした天変地異に一切影響を受けることなく永らえるのです。

そしてアッシリヤが攻めてくること、言い換えると神を信じない国々の騒ぎについて考えてみます。大洪水のような軍勢に対して、近くに流れている小川のような水に拠り頼むことの必要性を午前中にお話ししました。キリストの下さる命の水、私たちの心の内から溢れる水を離れて、この世に流れている水に魅かれる誘惑が私たちにあります。ヒゼキヤの前の王アハズは、その過ちを犯しました。彼が王である時に、北にあった国イスラエルとシリヤが連合でユダを攻めようと企んでいました。ところがアハズは、主なる神に頼らずに、こともあろうにアッシリヤに助けを呼んだのです。それで確かに、アッシリヤはシリヤと北イスラエルを倒しました。けれども、それだけで終わらず、アッシリヤは北イスラエルからさらに南ユダの町々を攻めてくるのです。

その警告を預言者イザヤがアハズに対して行なっていました。「主はさらに、続けて私に仰せら

れた。「8:5-8 この民は、ゆるやかに流れるシロアハの水をないがしろにして、レツインとレマルヤの子を喜んでいる。それゆえ、見よ、主は、あの強く水かさの多いユーフラテス川の水、アッシリヤの王と、そのすべての栄光を、彼らの上にあふれさせる。それはすべての運河にあふれ、すべての堤を越え、ユダに流れ込み、押し流して進み、首にまで達する。インマヌエル。その広げた翼はあなたの国の幅いっぱい広がる。」シロアハというのが、エルサレムに流れる水のことです。これをないがしろにした、そしてアッシリヤに頼んだが、それはユーフラテス川からの氾濫のようなものだ、ということです。インディアナ・ジョーンズの映画にあったでしょうか、喉が渇いて水が飲みたいと呟いていたところ、鉄砲水が襲ってきて必死に逃げている場面がありました。私たちが、キリストの内にある泉から水を飲むことの必要性を覚えます。

## 2B 戦いをやめさせる方 8-11

46:8 来て、主のみわざを見よ。主は地に荒廃をもたらされた。46:9 主は地の果てまでも戦いをやめさせ、弓をへし折り、槍を断ち切り、戦車を火で焼かれた。46:10 「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」46:11 万軍の主はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらのとりでである。セラ

これは、主が再臨される時の姿です。この世の最後の姿は、世界大戦です。全世界の軍隊がイスラエルのメギドというところに集結し、最終的にエルサレムを攻めるところで終わります。なぜ戦うのか？ヤコブが端的に言いました。「4:1-2 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをします。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。」

終わりの日は、今あるものに満足できず、欲しがるとき、貪るとき、妬む時であります。神がおられることを知り、この方の前でへりくだり、神に服し、この方に満たされることによるのみ平和が来ますが、それを行わず、かえって自分を神として戦うのです。それが心の中だけでなく、世界的に目で見える形で終わるというのが、聖書の描く終末です。しかし、こうした神を認めぬ者たちの動きを一切やめさせます。そして、「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。」と言われます。この方こそ神であることをすべての者たちに現されます。そして、神を神として認めていなかった国々が、神としてあがめるようになると主は言われます。それが、王の王、主の主として来られたイエス・キリストがエルサレムに立ち、神の国を立てられる時に起こります。

## 2A 国々の喜び叫ぶ王 47

47 篇は、地上に戻って来られたキリストが王としてエルサレムで即位することを祝い、喜び踊る歌です。

## 1B 選ばれた嗣業の地 1-4

47 指揮者のために。コラの子たちの賛歌 47:1 すべての国々の民よ。手をたたけ。喜びの声をあげて神に叫べ。47:2 まことに、いと高き方主は、恐れられる方。全地の大いなる王。47:3 国々の民を私たちのもとの、国民を私たちの足もとに従わせる。47:4 主は、私たちのためにお選びになる。私たちの受け継ぐ地を。主の愛するヤコブの誉れを。セラ

神に対して手を叩いています、喜びの声を上げています。それは、「すべての国々」と書いてあります。イスラエルの民だけでなく、全世界の民が神をほめたたえています。「全地の大いなる王」と、イスラエルだけでなくすべての地であがめられる方です。そして、私たちはどうしても静かに歌うことが霊的であると考えてしまいます、確かに伝統的な教会では静かに歌っていますね。けれども、エルサレムでは宗教的なユダヤ人たちは、喜び踊って、手を打ち叩いています。私たち日本人も、スポーツ観戦で我を忘れて、応援して、喜び踊るのですから、ましてや私たちの王に対して、そのように喜び踊らずにいられるでしょうか？

そして、「私たちのもとの、足元に国民に従わせる。」とありますが、これは、イスラエルの地、そしてエルサレムの都に国々の民に従わせるということです。イエス様が戻ってこられて神の国を立てられる時、主はイスラエルに約束してくださっていた土地を回復させ、彼らに土地を所有するようにしていただきます。そしてエルサレムの都に神殿、また宮殿をお建てになり、そこで王として着座されます。

## 2B 即位される主 5-10

47:5 神は喜びの叫びの中を、主は角笛の音の中を、上って行かれた。47:6 神にほめ歌を歌え。ほめ歌を歌え。われらの王にほめ歌を歌え。ほめ歌を歌え。47:7 まことに神は全地の王。巧みな歌でほめ歌を歌え。47:8 神は国々を統べ治めておられる。神はその聖なる王座に着いておられる。

主ご自身が今、エルサレムの王座に着くべく歩いておられます。そこを、人々が喜びの叫びと、角笛の音でほめ歌っているのです。

47:9 国々の民の尊き者たちは、アブラハムの神の民として集められた。47:10 まことに、地の盾は神のもの。神は大いにあがめられる方。

ここに、驚くべき発言があります。国々の民、つまり異邦人たちの中で、アブラハムの神の民として集められる者たちがいます。ここにはっきりと、イエス・キリストを信じる信仰によってアブラハムの子孫とされたキリスト者たちの姿があります。「ガラテヤ 3:7-8 ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される。」と

前もって福音を告げたのです。」神に立ち返ったイスラエルは、3-4 節にあるように国々を従えて、神への礼拝へと導きますが、キリストにある異邦人たち、つまり私たちも尊き者として人々を従えるのです。

ここに使徒ペテロが言った言葉を思い出すのです。「1ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」私たちがいるということは、人々に対して神に導く祭司を務めているのだということです。主に対して仕え、何をして仕えるのかというと、自分がキリストに満たされて、この方を人々に証して、そして人々をキリストに導くことです。キリストを代表して生きるということです。そして神を知らない人々が、自分を通して神をほめたたえるようになるようにすることです。

### **3A 大王の都 48**

48 篇は、即位した王キリストがエルサレムの都におられる姿を描いています。その都の麗しさを歌っています。

#### **1B おじ惑う王たち 1-8**

48 歌。コラの子たちの賛歌 48:1 主は大いなる方。大いにほめたたえらるべき方。その聖なる山、われらの神の都において。48:2 高嶺の麗しさは、全地の喜び。北の端なるシオンの山は大王の都。48:3 神は、その宮殿で、ご自身をやぐらとして示された。

このシオンの山は、今のものと地形がもちろん異なっています。イザヤ書、エゼキエル書、ゼカリヤ書を読めば、エルサレムの周りは低地となり、シオンの山だけが際立って高くなり、すべての国々がそこに上っていき、主を礼拝することが書かれています。「北の端なるシオンの山」とありますが、これは世界を天から治める時に使われる表現です。明けの明星、サタンが、世界を治めたいと欲してこう言いました。「イザヤ 14:13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。』」天におられる神によって世界を支配する座が北の果てにあるということです。今、神の国においてこの座にキリストが着いておられます。

48:4 見よ。王たちは相つどい、ともどもにそこを通り過ぎた。48:5 彼らは、見るとたちまち驚き、おじ惑って急いで逃げた。48:6 その場で恐怖が彼らを捕えた。産婦のような苦痛。48:7 あなたは東風でタルシシュの船を打ち砕かれる。48:8 私たちは、聞いたとおりを、そのまま見た。万軍の主の都、われらの神の都で。神は都を、とこしえに堅く建てられる。セラ

王たちが、この偉大な王を見て、おじ惑っています。恐怖で、産婦のような苦痛が襲ったとありますが、これは患難時代に災いが人々を襲った時に人々が苦しむ時にも使われる表現です。「1テ

サロニケ 5:3 人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。」もう一つ、タルシシュの船が打ち砕かれるとありますが、これは当時の国際貿易を牛耳る都市国家であったツロの誇る船のことです。これが神からの裁きの風、東風で台無しにされるということです。つまり、王たちのような権力を誇っている者も、富を誇っている者も、王なるキリストの前で震え、また倒れるということです。

神ではなく、己の力に頼って生きている者。神ではなく富に頼って生きている者は、終わりの日にこのようにおじ惑い、打ち砕かれることを示しています。そして、神に拠り頼む者は一時的ではなく、永久の都の中でいることができます。私たちに与えられている救いは、永久まで続く保障のあるものです。

## 2B 宮にある神の恵み 9-14

48:9 神よ。私たちは、あなたの宮の中で、あなたの恵みを思い巡らしました。48:10 神よ。あなたの誉れはあなたの御名と同じく、地の果てにまで及んでいます。あなたの右の手は義に満ちています。48:11 あなたのさばきがあるために、シオンの山が喜び、ユダの娘が楽しむようにしてください。

偉大な王に対して、王たちはおじ惑い、タルシシュの船は打ち破られますが、神の宮の中は恵みに満ちています。ここから、地の果てに向かって神の裁きが行われているからです。ここにある恵みがあるから、世界が神の正義に満ち、平和の実を結んでいます。ここに恵みがあるから、世界に実が結ばれ、豊かにされています。すべての源が、この宮の中にあるのだということです。

私たちの時代は今、私たち自身が聖霊の宮です。つまり、私たちがイエスの御名で集まるところ、そこで聖霊が働いてくださいます。キリストを王としてあがめるところ、そこに聖霊が働いてくださり、恵みが満ちてくださいます。ここから神の義が広がるのです。

48:12 シオンを巡り、その回りを歩け。そのやぐらを数えよ。48:13 その城壁に心を留めよ。その宮殿を巡り歩け。後の時代に語り伝えるために。48:14 この方こそまさしく神。世々限りなくわれらの神であられる。神は私たちをとこしえに導かれる。

今、詩篇の著者は宮から外に出て、城壁を眺めています。そして、この城壁のところで神がおられること証して、後の世代に語り告げます。事実、ヒゼキヤの時代の神殿は崩されましたが、ここでキリストが来られて、ここで十字架に付けられ、そしてよみがえり、天に引き上げられ、ここで聖霊が降りました。ここから福音の言葉が語られました。私たちは今のエルサレムに行っても、そこに城壁を見ます。そして城壁の中、また周囲に、今もキリストが行われた遺跡があり、そこに世界中からキリスト者が集まってきます。事実、何十世代にも渡って語り告がられています。

#### 4A 死ぬ時に持って行けない富 49

そして 49 篇は、興味深い詩篇です。神の都についてほめたたえた後に、今度は神を知らない国々が求めることについて、その栄華がいかに空しいかを知恵をもって語っている部分です。神の都の永遠性と、人々の求める富の一時性の対比です。

#### 1B すべての国々への知恵 1-4

49 指揮者のために。コラの子たちの賛歌 49:1 すべての国々の民よ。これを聞け。世界に住むすべての者よ。耳を傾けよ。49:2 低い者も、尊い者も、富む者も、貧しい者も、ともどもに。49:3 私の口は知恵を語り、私の心は英知を告げる。49:4 私はたとえに耳を傾け、立琴に合わせて私のなぞを解き明かそう。

著者は再び、すべての国々の民を呼び寄せています。神の都を見ているものたちに語っているのでしょう。そしてこれから話すことは、地位や経済的な力に関わらず、すべての者が聞かなければならないものです。知恵であり、事実、自分たちの目で認めることのできるものであります。

#### 2B 栄華に留まれない人 5-13

49:5 どうして私は、わざわいの日に、恐れなければならないのか。私を取り囲んで中傷する者の悪意を。49:6 おのれの財産に信頼する者どもや、豊かな富を誇る者どもを。49:7 人は自分の兄弟をも買い戻すことはできない。自分の身のしろ金を神に払うことはできない。49:8 ..たましいの贖いしろは、高価であり、永久にあきらめなくてはならない。..49:9 人はとこしえまでも生きながらえるであろうか。墓を見ないであろうか。

人が富を持てば、力を持ちます。そして、力を持っている者が自分の悪事を隠すために弱者を中傷します。ゆえに、富を何よりも大切にす社会です。しかし、非常に重要なことがあります。その富は、命を買い戻すことはできないということです。だれが、人の命を金によって引き伸ばすことができるでしょうか？高度な医療技術を受けることができる、ということはあるかもしれませんが、それもたかが知れています。「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。(マタイ 16:26)」

ラザロと金持ちの話思い出します。死んだ後どちらもハデス、陰府に下りました。金持ちとラザロがいるアブラハムのふところの間には大きな淵があり、互いに行き来することができません。そして、金持ちは、自分の兄弟がここに来ないようにラザロを父の家に送ってくれと頼みます。アブラハムは、それでも兄弟たちは信じないだろう、ラザロが生き返ったとしても信じないだろう、と言いました。だから、人は兄弟をも買い戻すことはできません。魂は、金銭よりもっと尊いもので買い取られなければいけないのです。それは何でしょうか？主イエスが流された血、注がれた命です。ペテロが手紙の中でこう書きました。「ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなし

生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。(1ペテロ 1:18-19)」

49:10 彼は見る。知恵のある者たちが死に、愚か者もまぬけ者もひとしく滅び、自分の財産を他人に残すのを。49:11 彼らは、心の中で、彼らの家は永遠に続き、その住まいは代々にまで及ぶと思ひ、自分たちの土地に、自分たちの名をつける。49:12 しかし人は、その栄華のうちにとどまれない。人は滅びうせる獣に等しい。49:13 これが愚か者どもの道、彼らに従ひ、彼らの言うことを受け入れる者どもの道である。セラ

知恵者ソロモンも、伝道者の書で自分が労苦して得た事業において、その後継者が無駄にしてしまうことを嘆いています(2章)。多くの人が、死後のことを考えます。けれども、覚えられていることなど、ほとんどないのです。人間は利己的です、自分の今のことで精一杯で先人を敬っていることはないのです。札の上に載っている人、どれだけの人が敬っているでしょうか、誰かもよく知らないでお金の取引をしているだけです。神を知らない人々は、そう言った意味で獣と等しいのだと言っています。進化論では人間の先祖は獣だということですが、確かに神を知らなければ獣と人間は変わらない、ということになります。

### 3B 陰府から買い戻される魂 14-20

49:14 彼らは羊のようによみに定められ、死が彼らの羊飼いとなる。朝は、直ぐな者が彼らを支配する。彼らのかたちはなくなり、よみがその住む所となる。49:15 しかし神は私のたましいをよみの手から買い戻される。神が私を受け入れてくださるからだ。セラ

非常に大切な教訓です。愚か者、神を知らない者は死んでそれで終わりです。しかし、直ぐな者、あるいは神に信頼する者は死で終わりません。永遠の命を持ちます。死んでもよみがえります。神は生きている者の神であられ、私たちが必ずよみがえらせ、そして神の国においてキリストと共に統治するのです。

49:16 恐れるな。人が富を得ても、その人の家の栄誉が増し加わっても。49:17 人は、死ぬとき、何一つ持って行くことができず、その栄誉も彼に従って下っては行かないのだ。49:18 彼が生きている間、自分を祝福できても、また、あなたが幸いな暮らしをしているために、人々があなたをほめたたえても。49:19 あなたは、自分の先祖の世代に行き、彼らは決して光を見ないであろう。49:20 人はその栄華の中にあっても、悟りがなければ、滅びうせる獣に等しい。

伝道者の書を書いたソロモンは、結婚式のような祝宴ではなく、喪中の家に行くほうがよいと言っています(7:2)。なぜなら、そこに人の本当の姿があるからです。人は裸で生まれましたが、裸で土の塵に戻ります。自分の持っているもので、この命を計ってはならないことを、喪中の家に行けば自ずと分かるのです。私たちが死ぬ時も、持っているものではなく、その命そのものに尊厳を

もって死んでいけるのか、ということが最も大事なことでしよう。

このように、神の都に住み、神の国を受け継ぐ者たちと、この世を自分たちの嗣業、受け継ぐところと考える人たちの違いです。

## **5A 審判者なる神 50**

次、50 篇は、エルサレムに王として来られるキリストの前に、神の民が集められる場面です。国々の民ではなく、すでに神を知っているとされるイスラエルの民が集められ、そして審判を受けます。選り分けられて、祝福を受ける者と、呪いを受ける者に別れます。

### 1B 感謝のいけにえ 1-15

#### 1C ご自分の民の選り分け 1-6

50 アサフの賛歌 50:1 神の神、主は語り、地を呼び寄せられた。日の上る所から沈む所まで。50:2 麗しさの窮み、シオンから、神は光を放たれた。50:3 われらの神は来て、黙ってはおられない。御前には食い尽くす火があり、その回りには激しいあらしがある。50:4 神はご自分の民をさばくため、上なる天と、地とを呼び寄せられる。50:5 「わたしの聖徒たちをわたしのところに集めよ。いけにえにより、わたしの契約を結んだ者たちを。」50:6 天は神の義を告げ知らせる。まことに神こそは審判者である。セラ

これまでと同じように、シオンにおられる神が光を放ち、それで全世界にいる者たちを呼び寄せておられます。呼び寄せているのは、ご自分が契約を結ばれた民、イスラエルです。これから、彼らを裁かれるのです。契約を結んだからといって、その者が悔い改めることなく自動的に救いにあずかると言ったら間違いです。イスラエル人も、それぞれがその契約の中に自ら入り、神を選び取らなければ単なる偽善者であり、神の救いから外されます。

#### 2C 助けられる主 7-15

50:7 「聞け。わが民よ。わたしは語ろう。イスラエルよ。わたしはあなたを戒めよう。わたしは神、あなたの神である。50:8 いけにえのことで、あなたを責めるのではない。あなたの全焼のいけにえは、いつも、わたしの前にある。50:9 わたしは、あなたの家から、若い雄牛を取り上げはしない。あなたの囲いから、雄やぎをも。50:10 森のすべての獣は、わたしのもの、千の丘の家畜らも。50:11 わたしは、山の鳥も残らず知っている。野に群がるものもわたしのものだ。50:12 わたしはたとい飢えても、あなたに告げない。世界とそれに満ちるものはわたしのものだから。50:13 わたしが雄牛の肉を食べ、雄やぎの血を飲むだろうか。50:14 感謝のいけにえを神にささげよ。あなたの誓いをいと高き方に果たせ。50:15 苦難の日にはわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出そう。あなたはわたしをあがめよう。」

神の戒めの言葉であります。実は彼らをほめて、祝福しておられます。神が叱責しておられる

のは、それはいけにえを捧げていたことによって自分が神につながっていたと思っていたことです。いけにえがなければ、神が成り立たないであるかのように犠牲を払っていたということです。違うということを、神はすべて地にあるものは自分のものであり、わたしが何か不足していけにえを要求しているのではない、ということでもあります。

では、なぜいけにえを捧げるのか？それは、「感謝のいけにえ」だと言っています。いけにえを捧げるのは、神を支えるためではなく、神のしてくださったことに対して感謝して、応答しているからです。すべてのことは神がしてくださったのです。私たちは時に、この順番をイスラエル人と同じように間違ってしまう。熱心に主に仕えている中で、いつの間にか自分自身がこの働きを支えているという、悪い責任感を抱きます。いいえ、自分がいなくても神はご自分の計画を成し遂げることができるのです。では、神はなぜ私たちに仕えよというのか？それは、私たちが神の恵みにあずかり、神に運ばれていくようにするためです。必要なのは、もっぱら神がしてくださっているところに留まって、そして感謝を捧げることであります。

そして、神が支えておられるのだから、ここで苦難の時に自分で苦しむのではなく、主に助けを呼び求めなさいと勧めています。

## 2B 主の戒めを憎む者 16-23

50:16 しかし、悪者に対して神は言われる。「何事か。おまえがわたしのおきてを語り、わたしの契約を口にのせるとは。50:17 おまえは戒めを憎み、わたしのことばを自分のうしろに投げ捨てた。

契約を口に載せているだけ、つまり口だけで実を否定しているような者たちのことです。外見はイスラエル人かもしれませんが、契約の中に入っていなかった、その決断をせずに生きてきた者たちです。

50:18 おまえは盗人に会うと、これとくみし、姦通する者と親しくする。50:19 おまえの口は悪を放ち、おまえの舌は欺きを仕組んでいる。50:20 おまえは座して、おのれの兄弟の悪口を言い、おのれの母の子をそしる。

契約の中に入っていなかった証拠として、これらのことを平気で行っていたということがあります。新約聖書も実は同じなのです。「あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。(1コリント 6:9-10)」

50:21 こういうことをおまえはしてきたが、わたしは黙っていた。わたしがおまえと等しい者だとお

まえは、思っていたのだ。わたしはおまえを責める。おまえの目の前でこれを並べ立てる。50:22 神を忘れる者よ。さあ、このことをよくわきまえよ。さもないと、わたしはおまえを引き裂き、救い出す者もいなくなろう。

なぜ、悪者だったのか？それは、彼が神を自分と等しい者にしたといえます。つまり、神は自分を見ることはできないと考える。神は自分と同じような義しか持っていないと考える。自分を基準にして神も同じように考えていくのです。神が神であり、自分のごく小さき者であるということを忘れていきます。これが悪を行なうことのできる理由であります。神への恐れがなくなっているのです。

50:23 感謝のいけにえをささげる人は、わたしをあがめよう。その道を正しくする人に、わたしは神の救いを見せよう。」

感謝のいけにえを捧げる者が、その道を正しくすることができ、神の救いを見ることができます。神に自分が生かされ、支えられ、運ばれていると知っておる者が、自分自身を聖め、神の中に生きようとします。その中に救いがあります。

こうして、たとえ神の民だとされていても、キリストがシオンに立たれることによって、右と左に選り分けられるのです。新約聖書では、イエス様は異邦人の国々をご自身が戻ってきた時に裁くことを話しておられます。羊と山羊を選り分けるように選り分けます。その時の基準は、苦しめられている小さき者を助けたかどうか、であります。その小さき者はわたしの兄弟であるとイエス様は言われました。具体的には患難時代に苦しめられているユダヤ人たちの事です。

けれども私たちは、キリストが私たちの内だけでなく外にもおられることを知らないといけません。つまり、苦しんでいる人々、そこにキリストは一つとなっておられます。そのところまで私たちが手を差し伸べるのです。

こうして私たちは、キリストがシオンで王として君臨するので、賛美をして、それからこの世の受け継ぐ物の虚しさを学び、それから審判者としてもその王座に着いておられることを知りました。